



「

「読書の秋」の由来として多く語られるのが、古代中国の漢詩です。詠んだのは唐代の詩人として高名な韓愈（かんゆ）で、時代は8世紀頃とされます。「秋になり長雨があがって空も晴れ、涼しさが丘陵にも及んでいる。ようやく夜の灯に親しみ、書物を広げられる。」と詠んだとされています。涼しい秋の夜、ゆっくり読書をしてみてはいかがでしょうか。

【今月の展示コーナー】

1つ目のテーマは

「ジビエについて考えよう」です。

ジビエとは、フレンチ料理の用語で、捕獲された野生のシカやカモ類等の鳥獣の肉をいいます。三重県では、より安全で美味しく食べるために、県が基準を定めた『みえジビエ』品質・衛生管理マニュアル』を策定し、高度な衛生管理がなされた高品質な食肉の確保を進めています。



2つ目のテーマは、

「映画化・ドラマ化された小説を読もう」です。

今回は、映画化・ドラマ化された本を紹介します。映像やドラマ作品しか観ていない方はもちろん、原作を既に一度読んでいる方も、これを機に今一度読み返してみるのはいかがでしょうか。

【今月の 先生おすすめ本】

「 マカン・マラン 二十三時の夜食カフェ 」

著者 古内 一絵

出版社 中央公論新社



つい、食に関する本に目が行ってしまいます。本屋さんで私がこの本を手にとろうと思ったのも例外ではありませんし、「思いきり泣きたい夜にいらしてください」というお誘いにも自然と乗っていました。

物語では、深夜にひっそりと営業しているカフェに、いろんな悩みを抱えた人がやってきます。どんな人でも包み込む優しさがあるオーナーさんが、その人に合わせて丁寧に作ったお料理を出してくれます。食に興味がある人は登場するお料理にも楽しめるのではないのでしょうか。そしてもしかしたら、あなたの心を軽くしてくれるような何かに出会えるかもしれません

短期大学部食物栄養学 乾 陽子 先生

「 囚われのいじめ問題 – 未完の大津市中学生自殺事件 」

著者 北澤毅・間山広朗

出版社 岩波書店



いじめを受けると、自殺するほど追いつめられることがある。学校や教育委員会はいじめを隠ぺいし、なかったものにしようとする。いじめ問題は、こうした前提で認識されがちである。しかし、このような私たちの囚(とら)われこそが、「事実」をゆがめているのではないか。2011年の大津市中学生自殺事件に対する、マスメディアの報じ方や当事者の考えを分析し、この事件が私たちにとって分かりやすい「事実」で認識されていったことを立証したのが本書である。

たとえば担任は、いじめが自殺原因だと思っていなかったと裁判で証言している(7章)が、それは本心か、それともウソか。皆さんはどう思ったでしょうか。本心かウソかは分からないが、この証言を担任の言い逃れという分かりやすい「事実」で認識している限り、担任の証言が妥当なのかどうかを検証されることはない。これが問題だということである。

見た目は難しそうなお本だが、それほど難しくはない。知的な刺激が手軽に取りたい人におすすめ。

短期大学部こども学 井上 剛男 先生

※図書館カレンダーは鈴鹿大学ホームページをご覧ください。

※図書館の一般の方向けの開放を再開しております。引き続き「マスクの着用、入館時の手指の消毒、検温、記名、できるだけ短時間での滞在」にご協力くださいますようお願いいたします。